

2018年度 事業報告

篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来、「差別の現実に深く学ぶ」ことを基本理念にすえて、同和問題をはじめあらゆる人権課題の解消に向けて取り組んできました。

2016年12月に「部落差別解消推進法」が施行され、「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」と合わせて「差別解消三法」施行から早二年が経過しましたが、法施行後の社会状況をみると、インターネット上の悪質な差別書き込みやヘイトスピーチの横行など、差別の厳しい現実が存在しています。

市同教として、法制定によって差別解消推進に向けた取り組みは大きな転換期を迎えていると捉えており、人権が尊重され、差別のない社会づくりを実現するために、「差別解消三法」の周知、教育・啓発の取り組みを進めてきました。人権・同和学习への関心や人権意識を高めていくよう、市民みなさんの主体的な学習機会の確保と人権を体感する活動に取り組んできました。

研究大会では、大会テーマを「人権意識の高い地域づくり」とし、基調講演は「差別のない地域をめざして～人権意識を高めるには～」の演題で、北口末広さんにご講演いただきました。分科会は、「人権文化が根づく地域づくりをすすめよう」という方針の下『みんなで住みよい人権のまちづくりについて考えましょう。』と「高齢者」「男女共生」「障がい者」「子育て」、さらに部落差別解消推進法の理解に向けて「特別分科会（部落差別の今）」を設置し、五つの分科会でそれぞれの人権課題を熱心に討議しました。

また、九つの部会で構成されている専門部会では、各部会ごとに課題を議論し、設定したテーマに沿った内容で、研修会やフィールドワーク、チラシ配布などの活動に取り組みました。専門部会を構成することにより、部会員が情報を共有し、課題の共通理解を図っています。解決策を見出し、それぞれの実践につながっていると考えます。

「篠山の人権を考える会」では、「在り方検討委員会」は市同教活動の現状と課題を考察し、改善策について検討を行い、提言としてまとめました。

「啓発推進委員会」はこれまでの調査研究活動の成果をフィールドワークとして、教職員研修や児童生徒、高齢者部会の研修、また他地域からの研修にと取り組みました。現地での体験学習によって、より実感を伴った学習ができました。

その他、「みんなの人権を考える映画会」では、人権映画「あん」を上映し、ハンセン病患者への差別や偏見について考え合うことができました。

会報『人権・同和教育 情報ネットワーク ささやま』では、市同教と市民の皆様とをつなぐ情報誌として、親しみやすく読みやすく工夫し、活動内容やコラムを掲載しました。市同教活動の理解につなげるよう努めてきました。

また、今年度も、市・各関係機関・団体と連携・協力して活動を進めてきましたが、さらに全市民組織としての連帯を強め活動を進めていきます。差別解消を一人ひとりが自分の事として考え、具体化に向けた取り組みが一層求められており、更なるご理解ご尽力を賜りますようお願いいたします。

1 篠山市人権・同和教育研究大会

①日 時 2018年12月1日(土) 13:00～16:15

②場 所 四季の森生涯学習センター・丹南健康福祉センター・市立中央図書館

③参加者 350人

④テーマ 「人権意識の高い地域づくり」

○基調講演 「差別のない地域をめざして～人権意識を高めるには～」

講師 北口 末広さん(近畿大学人権問題研究所・主任教授)

○分科会

特別分科会「部落差別の今～人権の歴史を通して見えてくること～」

講師 棚田 洋平さん(部落解放・人権研究所 事務局長)

第1分科会「高齢者が安心・安全に暮らせる地域づくり」

講師 高田 光裕さん(兵庫県人権啓発協会 研修講師)

第2分科会「女性も男性も活躍できる地域づくり」

講師 高田 智子さん(NPO 法人生涯学習サポート兵庫 研修講師)

第3分科会「障がい者への理解と共生」

講師 江坂 道雄さん(NPO 法人自立生活サポートネットワーク 理事)

第4分科会「インターネットと子どもの人権」

講師 生田 周司さん(兵庫県人権啓発協会 研修講師)

⑤実施状況

「人権文化が根づく地域づくりをすすめよう」という方針の下、大会テーマを設定しました。基調講演と五つの分科会の二部構成で行いました。

全体会の基調講演では、「差別意識の要因、現実・課題」と「差別撤廃」について社会システムと人権教育・同和教育の視点からお話しいただきました。

今、私たちの暮らすネット社会では、差別を助長し扇動する情報が横行しています。その差別の現状を正しく判断することや社会システムの改革と人権・同和教育の推進が差別撤廃を実現させることを学びました。

私たちは、人権に関する知識・理解や技能だけでなく、差別や偏見に気付く感覚など、日常生活の中で人権を尊重できる意識を高めていかねばならないと痛感しました。

分科会では、それぞれに講師の基調提案の後、地域の実態や課題、日常生活の中で身近な出来事について活発に話し合い、具体化につなぐことができました。

また、共有した課題の分科会に参加しているので、発言しやすい等のご意見をいただきました。

研究大会においては、全体会方式(講演)、分科会方式等、それぞれのメリットを駆使し、より学びを実感できる構成を考えていきます。

今後も「人権文化の根づく地域づくりをすすめる」よう教育・啓発活動に取り組んで参ります。

専門部事業

1) 保・幼部会

- ①日 時 2018年10月23日(火) 18:30~20:00
- ②場 所 篠山小学校 講堂
- ③参加者 61人
- ④テーマ 「互いの良さを尊重し認め合う人間関係づくり」
講師 丹後 政俊さん(ささやま冒険教育)

⑤実施状況

丹後 政俊さんは、2018年4月から『ささやま冒険教育』を立ち上げ、冒険教育や体験学習を通して、人々の潜在能力を伸ばし、良好な人間関係と幸せな生き方について提言されています。

当日は保育現場で働いている多くの保育士や幼稚園教諭が集まり、ペアチームや小集団グループを組んで身体を動かしながら様々な活動を繰り返し行いました。初めて顔を合わす人とも活発にコミュニケーションを交わすことができました。

「先生に教えていただいた体験(冒険)活動を保育の中で役立てたい。」「職場の人間関係づくりに生かしたい。」「園でアレンジして取り組みたい。」等、建設的な意見がたくさん寄せられました。人間関係づくりを実体験できた研修でした。

2) 学校部会

(1) 第1回研修会(フィールドワーク)

- ①日 時 2018年8月3日(金) 8:30~12:00
- ②コース 西紀支所→西誓寺→岡屋刑場(渡瀬橋)→篠山養護学校跡(篠山小)→民族学級跡(篠山小)→篠山城築城・藩政・民衆(篠山小)→市原村清兵衛頭彰碑→大対勇三郎翁碑→西紀支所
- ③参加者 30人
- ④テーマ 「篠山の人権史跡を訪ねて」
講師 中野 佳代子さん(篠山市同教 啓発推進委員)
畑 善継さん(篠山市同教 事務局)

⑤実施状況

この実地研修においては、長い歴史の中で様々な困難を地域で助け合い、乗り越えてきた足跡が残っていました。人権史跡や古文書を直に見ながら、調査・研究によって知り得た史実を併せ聞きました。厳しい差別や偏見の歴史を深く理解することができました。また、差別解消に向けて長年闘い続けた人々の思いや願いを想像し、先人の生きざまを学ぶことができました。

私たちの身の周りには、多くの人権史跡があります。今回の研修がなければ、何気なく通り過ぎていたかも知れません。身近にある史跡を人権の視点で見つめ直すことで、差別に立ち向かった人々の努力やつながりなど、重要な側面を学ぶことができました。改めて、差別解消を担うのは教育の力が重要であることを自覚し、人権教育・同和教育を推進してうえで地域教材を有効に使いながら自らの生き方を考える学習が大切だと思いました。

(2) 第2回研修会

- ①日 時 2018年11月1日(木) 15:00～16:40
- ②場 所 篠山市民センター 催事場
- ③参加者 52人
- ④テーマ 「SNSやインターネットによる人権侵害

～ネットの向こうには人がいる～」

講師 竹内 義博さん(ソーシャルメディア研究会)

⑤実施状況

インターネットには、掲示板やSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)などコミュニケーションの輪を広げる便利な機能があり、その利用が進む一方で、その利用に際して、他人の人権を侵害してしまう事例が発生しています。

情報化社会がめざましい進化を遂げている現在、この先、世の中の変化が読めない時代に突き進もうとしています。このような中、次世代を担う子どもたちがネット社会等に正しく対応していけるか親として、また一人の大人として不安を隠せません。情報モラルの低年齢化、SNS等におけるトラブルなど、新聞やテレビなどで毎日のように報道されているのが現実です。今こそ学校と家庭が連携して、ルール作りや親子の会話が必要であり、そのことが何よりのフィルタリングであることをこの研修で学ぶことができました。

3) PTA部会

- ①日 時 2019年1月20日(日) 13:30～15:00
- ②場 所 西紀老人福祉センター 教育ホール
- ③参加者 55名
- ④テーマ 「SNSやインターネットによる人権侵害

～ネットの向こうには人がいる～」

講師 竹内 義博さん(ソーシャルメディア研究会)

⑤実施状況

○「SNSでのトラブル」について

文章として書いた言葉の微妙な意味が通じていないため、いじめに発展する。

例「このむいぐるみ かわいくない」

「出会い系サイト」の利用は減少しているが、SNS利用者は増加している。

その原因は寂しさ、ネット上の人は優しい、話を聞いてくれる事があげられる。

○「対策」

子どもから「スマホが欲しい」と言ってきたときを「ピンチ」ととれえないで、

逆に「チャンス」と考え、スマホを与える前に、子どもと一緒に「ルール」や「時間的制約」等について話し合う事が大切である。

○まとめ

フィルタリングをかけることが大切である。と同時に「親としてのフィルタリング」を発揮していく事が最も重要である。また、自己管理できる子どもたちに育成することがやがて「自分を大切にする」ことにつながり、「相手を思いやる・違いを認め合う」心を育てることになる。

参加者の感想・意見については体験にもとづく話でおおむね好評でした。

○思い通りにいかず、悩みのつきない毎日ですが思い通りにすることをあきらめて、一人一人をしっかり見つめ、一緒に成長していきたいと改めて思いました。今日は、先生の話聞いて、子どもともっと話したいという気持ちが芽生えてきました。また、これまで以上に子どもへ優しく接することができそうです。

4) 障がい者部会

(1) 啓発チラシ配布活動

- ①日 時 2018年12月6日(木) 7:50~19:35
- ②場 所 JR篠山口駅、篠山市役所をはじめ市内13カ所で実施
- ③参加者 部会構成団体 69人
- ④テーマ 「【心のバリアフリー】でだれもが幸せに暮らせるまちづくり」
- ⑤実施状況

障害者週間12月3日~9日に合わせて実施しました。本年度は、各団体で協力して作成した啓発チラシをより多くの人たちに配ろうと配布場所を13カ所に増やしました。また、手から手へ受け取りやすいよう「ティッシュ付きのチラシ」にして、丁寧な呼びかけと併せて配布しました。

しばらく立ち止まって、呼びかけを聞いていただいた方もあり、うれしかったです。障がいに対する関心と理解が一層深まることを願います。

(2) 研修会

- ①日 時 2019年2月21日(木) 19:30~20:30
- ②場 所 篠山市民センター 多目的ルーム
- ③参加者 22人
- ④テーマ 「篠山市の施策：障がい者基本計画・第5期障がい福祉計画・第1期障がい児福祉計画について」
講師 中川 敬市さん(篠山市保健福祉部 地域福祉課)

⑤実施状況

「障害者差別解消法」が施行され、合理的配慮など法整備は進んでいますが、障がいのある人への社会的障壁や偏見が数多く存在しています。障がいがあってもなくても互いに人権を尊重し、共に支え合う社会にしていかなければなりません。支援団体、事業所、福祉行政が支援施策や体制づくりを共に考え、実践に結びつけていく研修となりました。今後も研修や交流の場を多くつくっていきたいと考えます。

5) 男女共生部会

- ①日 時 2018年11月8日(木) 13:30~15:00
- ②場 所 丹南健康福祉センター 第1会議室
- ③参加者 34人
- ④テーマ 「世代でみる男女共生意識の違いを学ぼう」
演題「わが家のコンダテ論!~今どき夫婦のパートナーシップって?~」
講師 中村 愛子さん(NPO 法人生涯学習サポート兵庫)

⑤実施状況

本年度の研修会では、「若い世代のパートナー意識」について学び、日常生活に反映させたいと、中村愛子さんをお招きして研修を行いました。中村さんには、パートナーと信頼し合い、協力し、笑顔で就労や子育てをされている様子を保育士経験や自身の子育てから得た母親目線で、話していただきました。

「家庭内の役割は、出来る者がする」を基本とされ、役割は決めずに出来る者がし、場合によっては一緒にされています。それは、家族が楽しくまた、気持ちよく過ごすためにだそうです。

研修会当日も、ご家族全員で来られていて、研修会の最後には、ご家族の皆さん

にも会場へ入っていただきました。中村さんのパートナーは、産まれて間もない赤ちゃんを抱っこし、もう一人の子どもと手をつないで、恥ずかしそうに入って来られました。参加者から「妻の仕事で、自分も、このような場に立つことをどう思いますか？」との質問に「ちょっと照れくさいですが、気になりません」と答えられ、参加者の殆どが年配者でしたが、若い人の考え方を知る有意義な研修となりました。

6) 宗教部会

- ①日 時 2019年2月5日(火) 13:30~15:30
- ②場 所 篠山市民センター 多目的ホール
- ③参加者 143人
- ④テーマ 「自分や他者を尊いものとして生きる」
演題「人生を豊かにするために」
講師 高田 光裕さん ((公財)兵庫県人権啓発協会)

⑤実施状況

本部会は、宗教者、各寺院寺総代、神社宮総代等の方々に構成され、例年多くの方に参加いただいています。本年度も寒い時期ではありましたが140名を超える皆様を迎えて開催することができました。今回は、市同教の研究大会等でも数多く指導いただいています高田光裕さんによる「人生を豊かにするために」と題した講演をお世話になりました。語りかけるような口調で大変分かりやすく、参加いただいた皆様に、自他を肯定しながら生きていくことの大切さについて考えていただく良い機会となりました。

【要旨・感想】

- 「表裏一体」どちらから見るかによって全く違う解釈となることが多々あります。「優柔不断」も反対から見ると「物事を深く考えることができる」となります。「あきっぱい」という面も反対から見ると「気持ちの切り替えがはやい」となります。「認知症の人を含め、相手の行動を良い方から見るのが大切です」という言葉には大変説得力があり、考えさせられました。
- 教育関係者以外の方にとっては、「自尊感情」という言葉自体あまり馴染みのないものかも知れませんが、「いいところも悪いところも含めた丸ごとの自分を肯定する」という言葉を核に具体的な例を織り交ぜながら分かりやすく話されていました。
- 誰しも何らかの組織に属して生活をされていますが、その中で「あなたはこの組織に必要な人だ」ということを他者に是非伝えてほしい。この言葉が本講演のまとめになる部分ですが、参加されていた方々は、日頃の自分の生活を振り返る機会になったことと思います。
- 人権も練習です。スポーツと同じように繰り返しの練習によって身につくものです。人を大切にする生き方も、一度話を聞いたからといってその生き方ができるものでもありません。人権も繰り返し指摘され、気づいて訂正していくという積み重ねをとおして身につけていくのです。この言葉は、参加者はもちろん市同教に向けられたものでもあると認識しました。

7) 企業部会

(1) 第1回研修会

- ①日 時 2018年12月11日(火) 18:30~20:00
- ②場 所 丹南健康福祉センター 第1会議室
- ③参加者 37人(管理職対象)
- ④テーマ 「企業の社会的責任と人権」
講師 大林 賢一さん ((株)オーシスマップ)

⑤実施状況

企業部会1回目の研修は、管理職を対象として行いました。大林さんは2001年に地図情報コンサルティング会社「オーシスマップ」を立ち上げられ、大きな発展を遂げられました。その要因には「誰もが働きやすい職場づくりに向けた取り組み」があると言われていました。

大林さんの講話全体を通して印象深かったのは、常に社員ファーストの考え方をされていることです。社員の幸せを大前提に、社内のメンバー全員を数班に分け、毎週どうすれば良い会社になるかを検討する社内満足度向上ミーティングを実施。挨拶だけではなく、ワーク・ライフ・バランスの取り組みにも効果を出されています。常に社員の声を聴く事が改善への近道とし、女性が働きやすい環境も整備され、家族への支援として「家族の日」を導入。大切な日には、定時退社を厳行するなど職場の環境改善の取り組みも、しっかりとされています。

また、ソーシャルビジネスによる地域貢献も展開され、企業は社会（地域）の一員であり、社会的責任として「会社としての人権とは、人と関わり合うことであり、皆で皆を理解し認め合うことである」と提言されています。

「人を大切にする」「人権を尊重する」が求められていることを学びました。

(2) 第2回研修会

- ①日 時 2019年3月7日(木) 18:30~20:00
- ②場 所 篠山市民センター 多目的ホール
- ③参加者 144名(管理職・従業員対象)
- ④テーマ 「部落差別の現状と課題について」
講師 棚田 洋平さん(部落解放・人権研究所)

⑤実施状況

2回目の企業部会研修は、管理職及び従業員の方々を対象として開催しました。今もまだ根強く残る部落差別。その現状を“人権問題に関する意識調査(大阪府・篠山市)の報告資料”を見ながら詳しく説明していただきました。

部落差別には、実態的差別と心理的差別があり、実態的差別は、同和地区をマイナスの意味で普通とは「ちがう」地区とする「見える」ちがいを指し、心理的差別は、同和地区に対する忌避意識・・・たとえば、結婚差別や土地差別のような意識。また、部落問題に対する無理解・無関心・・・たとえば「寝た子をおこすな」論、「部落分散」論など意識的なものを指します。棚田さんは、この両方の現状把握が課題解決のための取組実施の必要性につながると話されました。

企業における就職差別撤廃に向けた取組としては、社用紙から統一応募用紙を使用するようになったこと、採用選考にあたっては、応募者の「基本的人権を尊重すること」「適正・能力のみを基準として行うこと」とされCSR(企業の社会的責任)との関連も話されました。

「部落地名総監」やスマホ・インターネット上における誤った、また偏った情報の流布、差別書込み等のあいつぐ部落差別事件が忌避意識や偏見・差別意識を助長扇動し、結果、結婚や土地差別、そして差別言動につながります。しかし、既存の法律・条例では差別事件に対応できないという現状をもっと知り、差別解消への取組を推進していくためには、「部落差別は、ほうっておいたら自然になくなる」ではなく、同和教育や部落問題の学習経験、被差別部落出身者との「出会い」経験が有用であり、世代間や地域間格差に対応した取り組みの継承が必要であるとしてご教示いただきました。

8) 高齢者部会

高齢者の人権学習は、単位老人クラブや自治会との合同で開催されました。内容は「分かりやすく、楽しみながら学びたい」「自分の住む地域のことを知り、考えたい」という願いを取り入れて実施しました。

老人会組織が減少傾向にある中、実施困難なところもありますが、他地域の老人会組織と合同で開催される等、工夫をしながら意欲的に取り組まれました。実施した学習内容と会場は、資料として添付しています。

9) 地域部会

(1) 地域部会研修会

- ①日 時 2019年2月14日(木) 19:00~20:30
- ②場 所 丹南健康福祉センター2F 研修室
- ③参加者 31名
- ④テーマ 「認知症になっても、安心なまちをめざして」
演題 「高齢者の人権と認知症」
講師 松本 ゆかり さん(篠山市保健福祉部 地域福祉課)

⑤実施状況

地域部会の事前の打合会で、高齢化が急速に進んでいる市内各自治会に於いて、地域で高齢者を支える取組が十分にできていないことや認知症への理解と行動が進んでいないこと等が切実な課題として出されました。これを受けて認知症の理解も含めて、「認知症になっても、安心なまちをめざして」をテーマに研修会を開催することとしました。

- 地域で孤立する人を作らないために、人に言ったら恥ずかしいと思うのではなく、人に様子を話しておくことは大切なことです。多くの人は助けてと頼まれると助けたくなるものです。それが人とのつながりです。
- 対応で大切なことは、こんな時、自分だったらどうしてほしいかという視点で考えることが大切です。相手の立場になって考えることが基本です。
- 本人は自分でもできることがあるとの思いで行動しています。何もしなくていいよと言われるのが一番辛いことです。人はだれも役に立ちたいという思いを持っています。等々、認知症の理解と支え方という視点を核にお話いただきましたが、「人権」というキーワードで考えてみると納得できることばかりです。まさに市同教の専門部会としての研修内容でした。

3 篠山の人権を考える会

篠山の人権を考える会は、市同教としての方向性や課題を検討し意見を具申する「在り方検討委員会」と、人権文化が根づく地域づくりのため、効果的な市民啓発を行う「啓発推進委員会」の2つの委員会で活動しています。

- (1) 在り方検討委員会においては、市同教活動の現状と課題を考察し、改善策について検討を重ね、提言「これからの市同教活動について」としてまとめました。
- (2) 啓発推進委員会においては、これまでの調査研究活動の成果を講師・ゲストティーチャーとして、市同教の諸部会や学校教育、外部の人権関係団体の学習・研修に取り組みました。教育・啓発活動へのより効果的な取組や様々な学習・研修依頼に対応できる組織を検討しました。

4 「みんなの人権を考える」映画会

- ①日 時 2018年8月11日(土) 14:00~16:00
- ②場 所 篠山市民センター 多目的ホール
- ③参加者 48人
- ④テーマ 人権映画「あん」

どら焼きの店に雇われた一人の老女が作った粒あんが美味しくて、人々は列をつくって買い求めようとしますが、老女がかつてハンセン病だったと噂が広がると、ぱったり人気は途絶えてしまいます。世間の心ない噂が人の人生を大きく変えてしまうという内容でした。差別・偏見への根深さと生きる意味を考えさせられました。

5 フィールドワーク

- ①日 時 2018年8月26日(日) 8:30~15:00
- ②コース 西紀支所→西誓寺→岡屋刑場(渡瀬橋)→春日神社能楽殿(黒岡)→ささやま通園センター(沢田)→法貴発の碑(王地山公園)→忠霊塔と遺芳殿(沢田)→歩兵70連隊跡(郡家・三井ミーハナイト)→西紀支所
- ③参加者 21人
- ④テーマ 「篠山市内の人権史跡を訪ねて」
講師 中野 佳代子さん(篠山市同教 啓発推進委員)
井関 裕子さん(篠山市同教 啓発推進委員)
河南 崇さん(篠山市同教 啓発推進委員)
畑 善継さん(篠山市同教 事務局)

⑤実施状況

当日は、事務局が用意したリーフレット『今こそ語り伝えたい篠山の人権史跡』を携え市内7か所を巡る研修を行いました。史跡や古文書を自分の目でみたり、資料にもとづく講話を聞いたりしたことで、人権を身近に感じました。

「当時の人々の暮らしと差別や偏見に立ち向かう熱意を感じることができました。」「篠山市内に住んでいながら、知らない場所(出来事)が多くあります。リーフレットにあるすべての史跡に行ってみたいです。」「人権を尊重する社会・地域づくりには、多くの方が繋がる必要があることを学びました。」など、参加された方からたくさん感想をいただきました。

6 連携推進事業

(1) 丹波地区同教・丹波市同教との連携

丹波地区人権・同和教育研究協議会の研究大会、役員研修会、啓発冊子編集作業に関わるなど、市域を越えた交流を行い、様々な課題について協議を行いました。丹波市同教とは、交流や情報提供をしながら連携を進めてきました。

(2) 部落解放同盟篠山市支部連絡協議会・部落解放共闘会議との連携については、篠山市民集会、各種研修会への参加を中心に行いました。

(3) 人権推進課、教育委員会との連携

毎月1回、三者での打ち合わせ会を継続し、研究大会の内容や篠山市の人権課題について協議しました。人権教育の推進や啓発に関わる関係機関として、今後も連携を密にして進めていきたいと考えています。

(4) その他 人権関係団体との連携

7 研究大会・研究集会への参加

(1) 第65回兵庫県人権教育研究大会丹波地区大会

- ①日 時 2018年7月28日(土) 13:00~16:10
- ②場 所 四季の森生涯学習センター・周辺施設
- ③参加者 341人
篠山市より 180人(内、実践報告者7名 司会者7名 記録者7名)

- (2) 第65回兵庫県人権教育研究大会中央大会
台風接近により中止
- (3) 部落解放研究第52回全国集会
 - ①日 時 2018年11月27日(火)～29日(木)
 - ②場 所 岡山市・岡山県総合グランド体育館
 - ③参加者(篠山市同教より) 1人
- (4) 部落解放研究第39回兵庫県集会
 - ①日 時 2018年10月20日(土)
 - ②場 所 神戸市勤労会館
 - ③参加者(篠山市同教より) 3人
- (5) 第70回全国人権・同和教育研究大会
 - ①日 時 2018年11月17日(土)・18日(日)
 - ②場 所 滋賀県大津市・滋賀県立体育館(ウカルちゃんアリーナ)ほか
 - ③参加者(篠山市同教より) 4人
- (6) 第33回人権啓発研究集会
 - ①日 時 2019年2月6日(水)・7日(木)
 - ②場 所 新潟市・朱鷺メッセ
 - ③参加者(篠山市同教より) 3人
- (7) その他
 - ・諸研究大会・研究集会に参加して学んだことを各部会や役員会の中で報告し、多くの方々に広げています。

8 会報の発行・ホームページの運営

会報「人権・同和教育情報ネットワークささやま」を6月・10月・2月と年間3回発行しました。「人権が尊重されるまちをつくろう」「身近な生活の中から学ぼう」をテーマに、6回の編集会議を開催し協議しました。分かりやすく、読みやすい紙面になるよう、工夫しました。

ホームページは、人権に関わる情報発信基地として、市民の皆さんからの情報提供を受ける窓口の1つとして、広く活用されることを願って開設しております。今年度も、このホームページは、篠山市は元より他府県・他市からの視察やフィールドワークの依頼につながり、活用いただいています。

2019年3月18日現在のアクセス数は、90,577件です。

9 市民への学習支援

講師紹介や参考資料の紹介等、各団体や一人一人の研修や学習を支援しました。

10 図書・出版物の紹介

図書・出版物を購入し閲覧しました。